

Gateway to Asia, Gateway to the World!

台湾なら、『アジアに強いグローバル人材』に成長できます。

グローバル人材になる為には、英語を中心としたコミュニケーション能力が必要不可欠です。

しかし今、日本でも英語の出来る人材が増えてきています。従って、英語だけで就職が有利になるわけではありません。

Why Taiwan?

台湾の大学で学ぶことのメリット

- 日本人は外国人特別枠を利用し、**書類審査のみ**で合格出来ます。
※大学で要求されている中国語は日本で事前学習（最低学習時間400時間以上）する必要があります。
- 平均年間授業料は約35万円、卒業までの4年間生活費を含めた全ての費用が**最大300万円**程度です。
- ビジネスレベルの**中国語**だけでなく、実践的な**英語**や**IT技術**等も同時に学べます。
- 理論と実践を兼ね備えた、企業の「**即戦力**」となる人材育成に力を入れています。
- 台湾の学費で世界の大学（英語圏等）に**交換留学**出来ます。
- 海外大学の学位も取得出来る**ダブルディグリー・デュアルディグリー**プログラムも充実しています。

なぜ「中国語」が必要なのか

- 今や英語は出来て当たり前の時代なので、英語が堪能な人材は多く競争が激しい。
- 多くの企業・業種で中国語が必要とされているが、日本人でビジネスレベルの中国語の話せる人材はほとんどいない為、優遇される。
- 日本経済は衰退期に入り、国内消費はこれ以上伸びることが難しい為、日本が生き延びていくにはどうしても中国を中心とした東アジアの消費力に頼らざるを得ない。
→企業では**堪能な語学力だけではなく、現地の国民性や文化に理解があり、世界での人脈が活かせる人材が必要になっています。**

台湾の大学で使用されている英語と中国語のバランス (教材・授業使用言語)

- 英語を重点的に勉強したい人にお勧めのコース
⇒各大学の**All English**又は**応用英語学科**(英語約90%:中国語約10%)
- 中国語を両立させたい人にお勧めのコース
⇒各大学の**多くの一般的な学科**(英語約50%:中国語約50%)
- 中国語を重点的に勉強したい人にお勧めのコース
⇒**応用中国語学科**(英語約20%:中国語約80%)
- 英語も中国語も苦手な方にお勧めのコース
⇒**応用日本語学科**(英語約10%:中国語約45%:日本語約45%)
- ※外国人に日本語、日本人に中国語を教える資格を取得することもできます。

進学前の事前中国語学習機関：日本と台湾の比較

団体名	台湾大学進学予備校合宿コース (例) 6ヶ月間参加した場合	台湾の大学附属語学センター (例) 6ヶ月間の短期コースに参加した場合
場所	茨城県	台湾
1日の授業時間	4時間 / 8時間	2～3時間
大学入学までに かかる費用合計 (合宿6ヶ月間の場合)	授業料(400時間):約50万円、生活費:約30万円、申請費用:約20万円 授業料(800時間):約90万円、生活費:約30万円、申請費用:約20万円 (計100~140万円)	授業料:約30万円、生活費:約60万円、渡航費用(申請含):約20万円 (計約110万円)
講師の授業言語	日本語+中国語+英語	中国語(日本人専用クラスではないので、中国語の基礎能力が必要)
学習開始時期	卒業後から進学直前まで、日本で中国語能力を高めることができる。	高校卒業後、台湾に行き通学する。申請の際、書類準備の為に日本に何度か一時帰国が必要となる。
講師の数	生徒5～15名に対して1名の講師(台湾人)	10～20名(多くは日本人)に対して1名の講師(台湾人)
メリット	1. 台湾留学サポートセンターと連携し、指定校推薦を活用して100%合格が保証され、更に申請までサポート出来る。 2. 同センターの推薦で、初年度の学費や寮費免除等の特別給付奨学金が受給できる大学が多い。 3. 一足先に親元を離れ、同じように大学進学を目指す学生と共に、十分な準備ができる。	1. 台湾で学ぶことになるので、生活上でも中国語を使う環境が十分にある。 2. 大学内で学ぶことにより、モチベーションアップに繋がる可能性がある。
デメリット	1. 授業料自体は台湾の方が安い。(しかし、台湾では下宿生活になる為、トータル金額はほとんど変わらない) 2. 短期間で進学の為の準備をするので、忙しい。	1. 9月入学に間に合わない為、浪人を余儀なくされる可能性大。(進学できたとしても講義についていけない) 2. 大学進学を目的としていない日本人(社会人等)が多く、日本人同士が群れて台湾の学生が嫌う喫煙や飲酒等の悪習慣が身に付いてしまう恐れがある。 3. 日本の附属学校のシステムとは異なり、その親大学に直接入学できるわけでも、有利なわけでもない。 4. 申請は全て自分で行わなければならない。

◆外国人留学生の台湾留学に関する法令

外国人特別枠を利用して入学するには、外国人留学生の台湾留学に関する法令(外國學生來台就學辦法)の規定により以下の資格が必要となります。

外国国籍を有し、尚且つ中華民国国籍を有し、申請時に華僑生資格のない者。
外国国籍を有し、尚且つ以下の規定に適合する者で、申請時まで海外で連続6年以上居住している者。但し、大学で医学、歯学或いは中医学科を選択する者は、海外での連続居住期間は8年以上とする：

1. 申請時に中華民国の国籍も兼ね備えた者で、かつて台湾で戸籍登録をしていないこと。
2. 申請前に中華民国を有し、申請時には既に中華民国国籍が無い者は、内政部により中華民国国籍喪失が許可された日から起算し、申請時まで満8年経過していること。
3. 前二項は何れも華僑生の身分で台湾留学をしておらず、尚且つ同学年度で海外聯合招生委員会(海外聯合生徒募集委員会)による大学への振り分けを受けていないこと。

教育協力協議により、外国政府、機関或いは学校から選抜推薦されて台湾留学を果たした外国国民で、かつて台湾で戸籍登録をしていない者は、教育行政機関の承認があれば前二項の規定による制限を受けない。

第二項で定める6年、8年とは、入学が予定される学期の開始日(2月1日或いは8月1日)を最終日として計算するものとする。

第二項で挙げる海外とは、中国大陸地区、香港及びマカオ以外の国家或いは地区を指す；連続居住とは、外国人留学生在が毎年台湾国内に停留する期間が120日を超えていないことを指す。海外居留期間の開始と終了が同年度内に属さない場合、各年度で定められた期間内に台湾に停留する日数が120日を超えてはならないものとする。但し、以下の何れかに当てはまり、関連する証明文書があればその限りではない；この場合の国内での停留期間も、海外での居住期間としてみなされる。

1. 僑務機関が主催する海外青年技術訓練クラス或いは教育部認定の技術訓練クラスで在籍。
2. 教育部の認証を受け海外からの留学生を受け入れている各大学の華語文センターにおける在籍期間が2年未満である。

3. 2年未満の交換留学生。
4. 中央政府機関の許可を得て台湾で実習し、実習期間が2年未満である。
外国国籍と中華民国国籍両方を有し、本法令が中華民国100年2月1日に修正され施行される前に中華民国国籍喪失の申請を提出している者は、修正前の規定に沿い、第二項の規定による制限を受けない。
外国国籍と香港或いはマカオの永住権を有し、尚且つかつて台湾で戸籍登録をしておらず、申請時に香港、マカオ、或いは海外で連続満6年間居住した者は、本法令に準じて申請入学を行う。但し、大学の医学、歯学或いは中医学科を選択する者は、海外での連続居住期間は8年以上とする。又、かつて中国大陸の人民であり外国国籍を有し、尚且つ台湾で戸籍登録をしておらず、申請時に海外で6年以上居住している者は、本法令に準じて申請入学を行う。

※中華民国国籍法 第二条：

以下の何れかの条件に当てはまる者は、中華民国国籍を有する：

1. 出生時に父或いは母が中華民国国民である。
2. 父或いは母の死亡後に出生した場合、父或いは母が死亡時に中華民国国民である。
3. 中華民国領域内で出生し、父及び母が特定出来ない場合、或いはいずれも無国籍者である。
4. 帰化した者。

※外国人留学生として入学後、在学中に台湾で戸籍登録をしたり、帰化や中華民国の国籍を復活させたりした者は、外国人留学生の身分を喪失するものとし、退学処分にする。又、在学中素行不良や学業成績不合格、刑事事件により有罪が確定したこと等により退学処分を受けた場合、再度外国人特別枠を利用して入学申請することは出来ない。

◆台湾の大学進学に必要な能力 ~学力&語学力について~



学力

台湾の大学では、学士課程に出願する際は**高校在学中全ての成績**、修士課程に出願する際には**大学在学中全ての成績**が必要となります。学科によってはGPA(0~4ポイントで表される評定平均)や学年順位の証明が必要になる場合もあります。学力やその他の書面による審査を経て、学科ごとに入学を許可するかどうかを判断することになりますので、在学中に良い成績を取れば取る程、希望する大学に入り易くなります。

しかしながら、台湾の大学では日本の高校のレベルを把握していませんので、当センターが推薦する際には、必ず次の頁のような**独自の内申書**を大学に提出しています。これにより、大学側も客観的に可否の判断が出来る仕組みになっています。この内申書は、在学中の成績はもちろん、提携先台湾大学進学予備校での受講期間中の評価も全て反映されます。

華語(中国語)能力

台湾の大学への進学を考えるにあたり欠かせないのが中国語力です。外国人留学生とはいえ、一度入学したら現地の学生と一緒に授業を受けることになります。一部の学科を除いてはほとんど中国語で授業が行われますので、本来であれば**講義が聴き取れるだけの中国語能力(2000時間以上)**を身に付けてから入学するべきです。しかしながら、近年台湾の大学では、外国人留学生の入学時の中国語レベルを比較的易しく設定している為、ほとんどの大学では基礎~中級程度の中国語で入学を認めてもらうことが出来ます。但し、語学力が足りないと授業についていくことが出来ませんし、何より友達との交流や、日常生活に支障を来します。更に、入学後に中国語能力が不足していると判断されると、場合により**自費で補習授業を受けなければならない**となりますので、注意が必要です。

日本にいる間しっかりと事前学習に取り組んでおけば、渡航後のトラブルもより少なくなります。台湾人は日本人留学生には特別親切に接してくれる為、進学後に現地の学生と触れ合う機会を多く持つことで、卒業までには必ず流暢な中国語が身に付きます。

TOCFL (華語文能力試験)	学習時間目安	HSK筆記 (4技能推定能力)	中国語検定 (4技能推定能力)
流利級(高級)	2000H以上	6級(一)	準1級(1級)
高階級(中級)	1500H以上	5級(6級)	2級(準1級)
(初中級)	1200H以上	4級(5級)	3級(2級)
進階級(初級)	1000H以上	3級(4級)	4級(2級)
基礎級	800H以上	2級(3級)	準4級(3級)
入門級	400H以上	1級(2級)	準4級(4級)

中国語学習について

日本の高校で3年間中国語の授業を履修しても、最高で400時間程度しか学習できません。また、日本人や中国人の先生では、台湾で使われる繁体字も教えられませんし、台湾のことを事前に学ぶことは出来ませんので、事前学習は台湾人の先生に教えてもらうべきです。

当センターと連携して生徒を指導している台湾大学進学予備校では、台湾人講師が丁寧に教えてくれるだけでなく、学習記録を申請の際の語学証明書として提出することが出来ます。更には、当センターの指定校推薦枠等を活用して100%合格が可能です。予備校では、進学直前に学習達成度を測る為、華語検定も実施します。

英語力

台湾の大学では、多くの学科においてアメリカで出版されている英語の専門教材を採用しています。また、国際的な競争力を養う為、英語力の強化にも力を入れておりますので、一部の学科では書類審査に英語の能力証明を提出する必要があります。英語能力の証明に**最も役立つのがTOEFL或いはIELTS**で、TOEICの証明書を受け付けている学科も多数あります。日本の高校では英検が主流ですが、英検の証明書では認められない大学もありますので、英語を重視するような学科や上位大学を目指す際は、在学中にTOEFLを受験することを強くお勧めします。もちろん、All Englishプログラムでない限り、進学に最も有利になる言語は中国語ですので、中国語学習が最優先であることは間違いありません。

必要とされる英語力の例	TOEFL iBT	IELTS	TOEIC	英検
難関国立大学 英語学科、商学部、医学部、理学部、管理学部等	80	6.0	800	準1級以上
有名国立・私立大学	61	5.0	600	2級以上
中堅国立・私立大学	45	4.0	500	準2級以上

台湾留学サポートセンターによる能力総合診断書について

台湾留学サポートセンターでは、大学への推薦の際に、連携している台湾大学進学予備校と共同で下表を提出しています。その理由は、台湾の大学では日本の高校や学生の学力レベル、中国語能力等を判断するための材料が少ない為、可否の判断を誤ってしまう恐れがあるからです。台湾の大学からの要望により作成されたこの表では、以下の項目を総合的に評価することができますので、最終的に内申書として大学に提出されます。

下記の項目を点数化し、100点満点中何点を獲得できるかが各大学への推薦可否の目安となります。(学科により異なる場合があります。)つまり、台湾の大学に進学する為に必要である能力の中で、苦手な項目があったとしても、その他の能力で挽回できる可能性もあれば、どれか一つでも不足していると、進路の選択肢が狭くなる可能性もあるということです。

審査項目		偏差値 / GPA	評価 (5段階/10段階)				
高校偏差値	偏差値	平均 50 範囲: 35~75	5 (65以上)	4 (55~64)	3 (45~54)	2 (40~44)	1 (40未満)
	GPA成績	/5.0	5 (4.5以上)	4 (3.5~4.4)	3 (2.5~3.4)	2 (1.5~2.4)	1 (1.5未満)
基礎学力判定 <small>(中学卒業までの基礎学力テスト)</small>	偏差値	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	英語	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	数学	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	国語	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
中国語学習時間 <small>(台湾大学進学予備校にて)</small>	時間	10 高階級程度 (1000以上)	8 進階級以上 (700以上)	6 基礎級程度 (500以上)	4 入門級程度 (400以上)	2	
入学時の中国語能力	聞	10	8	6	4	2	
	話	10	8	6	4	2	
	読	5	4	3	2	1	
英語能力 <small>(TOEFL iBT/TOEIC/TOEFL iBT/TOEIC)</small>	TOEFL iBT	100以上	80以上	60以上	40以上	20点未満	
	TOEIC	800以上	600以上	400以上	200以上	100未満	
授業態度 <small>(台湾大学進学予備校による判断)</small>		5	4	3	2	1	
出席状況 <small>(台湾大学進学予備校による判断)</small>		5	4	3	2	1	
学習意欲 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
協調性 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
主体性 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
その他特記事項:							
総合得点		2019年 月 日					
満点 100点		 四年制大学・大学院正規留学専門 一般社団法人 台湾留学サポートセンター		記入責任者 一般社団法人 台湾留学サポートセンター 会長 安藤美保			

審査項目		偏差値 / GPA	評価 (5段階/10段階)				
高校偏差値	偏差値	平均 50 範囲: 35~75	5 (65以上)	4 (55~64)	3 (45~54)	2 (40~44)	1 (40未満)
	GPA成績	/5.0	5 (4.5以上)	4 (3.5~4.4)	3 (2.5~3.4)	2 (1.5~2.4)	1 (1.5未満)
基礎学力判定 <small>(中学卒業までの基礎学力テスト)</small>	偏差値	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	英語	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	数学	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
	国語	平均 50 範囲: 35~75	5	4	3	2	1
英語能力 <small>(TOEFL iBT/TOEIC/TOEFL iBT/TOEIC)</small>	TOEFL iBT	100以上	80以上	60以上	40以上	20点未満	
入学時の英語能力	聞 Listening	10	8	6	4	2	
	話 Speaking	10	8	6	4	2	
	読 Reading	5	4	3	2	1	
	書 Writing	5	4	3	2	1	
中国語学習時間 <small>(台湾大学進学予備校にて)</small>	時間	10	8	6	4	2	
授業態度 <small>(台湾大学進学予備校による判断)</small>		5	4	3	2	1	
出席状況 <small>(台湾大学進学予備校による判断)</small>		5	4	3	2	1	
学習意欲 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
協調性 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
主体性 <small>(予備校及びサポートセンターによる総合判断)</small>		5	4	3	2	1	
その他特記事項							
総合得点		2019年 月 日					
満点 100点		 四年制大学・大学院正規留学専門 一般社団法人 台湾留学サポートセンター		記入責任者 一般社団法人 台湾留学サポートセンター 会長 安藤美保			

この能力診断書は常に最新情報に更新され続け、進路面談の際にも活用されます。

評価項目

① 高校の偏差値	⑤ 中国語能力 ※読み書き、会話力をそれぞれ分析 ※主に入学時の達成度を見込みで評価	⑩ 出席状況 ※予備校での出席状況により判定	⑪ 主体性 ※サポートセンター・予備校による総合評価
② 高校の評定平均	⑥ 英語能力	⑨ 学習意欲 ※サポートセンター・予備校による総合評価	⑫ その他の注意事項、総合評価 ※サポートセンターによるコメント、総評
③ 基礎学力判定 ※高校入試レベルの英・数・国3教科	⑦ 授業態度 ※予備校での受講態度により判定	⑪ 協調性 ※サポートセンター・予備校による総合評価	
④ 中国語予定学習時間 ※進学時(8月末)までの目標時間数			